



繪本豊臣勲功記

六編  
六

遠13  
2209  
56



明遠 13  
2209  
卷 56

繪本豊臣勲功記六編卷之六

目錄

明智あけち光俊みつとむ打出でし濱はま與よ堀ほり戰いくさ

属まが林はやし烈はげ戰いくさ死し

光俊みつとむ躍おど大おほ駟し推おし涉せつ琵琶湖びわこ

属まが徐しゆ入い坂さか本もと

繪本豊臣勲功記六編卷之六

光俊勸諸士令落坂本城

属主從盡義

入江長兵衛為老狐被誑

属光俊仁偷



繪本豊后勲功記六編卷之六

櫻澤堂山 編輯



明智光俊打出演子堀戰 属林烈戰死

春來三尺の雲解れ一合の水をも持てま可物都く天成

あくざれい合なき事終る時化あくされは遠る事終る代

爰不明智左馬助光俊日向守の命を受て又千餘騎の勢を

有ち安去の海小在任仁を布一義を原一江州大才

これ成平らげ橋邊國の動靜を窺ひ西國までも心を通え

千幸万苦せし功もなき光秀一過の意後たれば腕も山崎の

一戦小大敗言浴も安とるなり然るも光俊のまご敗北を餘

ざる當日明智羽柴が勢の多寡事の虚实を鑑るる自方

運きりて猶なほ弱よわく。他軍たかへ順したがりて更さらに強つよし。今安国いまあにくにと這城こゝろ。六千の  
 兵士へいしと後のちに安やすきとあり。六千むせんも山崎やまざき。過失あやまちあり。其期そのきに  
 追おひ勝かちを嚼かむの悔くまき逢あえん。これとあり。昨夜さやも騎つり出でを  
 へきとあり。延のびばせしを悔くまき先まや六千むせんとち換かりて山崎やまざきへ  
 援たすかまへし。二千餘騎よきに城しろを守まもらせ。揮ふるき揮ふるき。精兵せいへい強率きやうそつ  
 二千餘人よきと跟ひき後のちへ坂本さかもと佐和山さわやま長濱ながはまへも。馳馬ちまあり。各急おのづかに  
 山崎やまざきへ出陣しゅつじんあれと告知つちからせ。直ただち安やす公こうを進發しんぱつして山崎やまざき境さかいへ  
 馳向ちむかふ。これ十日あさの曉あけなり。これ安やす公こうへ山崎やまざきの善徳ぜんとくの知らせ。山崎やまざきより六千むせんと  
 十日じふにちの申まをし。別わかれて通とほる。通とほる。加かい見みの驛しやくに迫せまりて。次第しだいに。小隊せうたいも  
 りて。山崎やまざき合戦あつせん敗北ばいぱく。日向守ひゅうがのりやうし敵戦てきせん死しせりと。河伸かののぶも。軍いも  
 あれ。勝純寺かつじゆんじの城しろへ投なりてあり。風聞ふうぶん匿かくれあり。これとあり。

敗北ばいぱくの事こと想おも遠とほなれ。左馬助さまのすけ大月おほつき敵てき驚おどき。出陣しゅつじんの遅おそりける  
 こを愕おどろされ。然しかりといふ。日別ひべつの存亡ぞんぱう実吾じつごと紅べにさるん。バ  
 信義しんぎあり。わを怯おそ臆おそふ似にたり。他人たにんの傍そばへ右みぎも左ひだりも。自みづか分の私し存ぞん  
 を思おもふ。堪たむ。一ひと城しろ坂本さかもとの城しろへ入り。光秀みつひでの妻つま子を投なげ。右みぎ  
 小こも左ひだりも料理れんりとん。諸勢しよせいと懸かり。馳ちまへ。心こゝろ一ひと文字もじ不ふ馳ち  
 ける。守山もりやま草津くさつ後路ごろ遠とほく。瀬田せたの驛しやくの智ちもや熱あつきも  
 凌しのび。栗津くりつの松原まつはら路みちと嵐あらしより。先まに馳ち通り。膳所ぜんじよと乾かり。翻かる  
 が像さかへ。西にしの莊しやう小こ到たうる。面路めんろより。一隊いつたいの軍馬ぐんば搦なり。搦なり。馳ち  
 あり。是こゝ羽柴はしばし荒ある。守まもり先陣せんじんなる。堀久ほりひさ太た府ふ秀ひで政まさあり。光  
 俊ひで秀ひで改かめ。大津おほつの通地つちあり。行ゆ命めいあり。秀ひで政まさ斯しと親おやより  
 も。急いそに小隊せうたいを。急いそに。一千よち又また百ひゃくの勢せいのうち。二百にひゃく餘あま人の鳥鏡とりかがみ隊たいに



明智光俊の  
後軍安王丸  
飛して栗津の  
松原を  
過る

豊田詰六 錦巻之六

を弄くと不進ませ。敵の虚実以窺ふ。時不妄去の城守。明智光秀光俊へ百卒の面貴も今日一朝と晝錦を。中飾る其懐松百練皮の黒鞆鞆の大袖小袖竹摺を紅白織混て最杖長きと背守に被下。其號へ他もよく知る。二の谷とつゝ兜を著し。八寸に陰れる大騎の肥く驍める強足あり。後ら波小舎艇の令漆繪あり。碧地の鞆安。同。換掃と象眼小。湧出する澄澄張り。令纏思とろり小襪と時せ。前後小あてる。尊旗ハ。燃立をりの色。着えろり。取際韃と腰に搔捕その頃往画の繪名ある。将野永徳が筆と振ひ。墨繪の雲龍と描きたる。鬼経とり。誠後縮布の袖中陣外套と襟三尺小。張夷錦の波織出せしと返し。くれだ。

△猪木世系  
ひまひま  
とろり  
鳴り  
疎漏  
時今六月  
大津  
北小座  
を盛五  
時今六月  
最稀  
其の中  
加れ  
板の理  
とり

颯と吹寄浦風小。裾翻り。最原。大津と正當小羽柴勢の。這方と目的進み。視る。自方の兵の一騎。馳来り。視ると折らせしと。正魁不進人。馬騎。鞍腰ゆる。采勢。指揮隊伍を整調。指揮かん。所相その武者。鞍の一層。厚く。日向守が。搦嶮と。忠功。勇悍の一将と。弁ねど。知る。英雄なり。胸不秀。政敵陣。奇兵の相も。着え。され。ば。ま。り。や。甚。は。指揮する。わ。と。を。在。馬。助。が。武。者。相。の。英。風。な。り。と。経。軍。勢。これ。搦。控。る。功。益。不。せん。と。吐。ひ。と。喚。ひ。と。馳。策。り。明。智。勢。と。推。捕。稠。り。然。る。も。這。胸。光。俊。方。へ。二。千。餘。人。と。馳。え。り。も。山。崎。敗。北。と。馳。より。這。所。の。政。路。那。所。の。通。路。も。次。取。り。と。逃。去。落。道。堀。が。魁。隊。小。向。小。胸。左。馬。助。小。後。小。輩。へ。百。人。あ。り。と。さ。り。と。り。

然とも練忠琢義の勇兵一騎當千と呼れり。石川幸次藤  
野村喜右衛門藤井式部。荻野喜之助村上兵衛比田玄蕃  
野川新八藤田友左衛門三宅傳八同傳右衛門原半右衛門  
初見左吉林半右衛門荒木友之丞船本八之丞佐藤大將光  
後小治りいせと。足踏鳴して進来る敵の當らぬ微塵に  
なさんずとのと。掌小唾しく太刀鎗の柄も刺る。身を振り至  
嘖く声しと向小極威と。左馬助儼と眇顧欣然こして笑を  
合も。呵曉まき這隊の勇士儼僅二百八九十騎もある  
べけれど。敵の去る小做れぬ。二十万ふも當らぬ。天が下なる  
剛の急なり。這勢とゆへ山崎の一隊と向も羽柴勢強。二  
三度がやぶ退前。日州敵の勞公と。まこうん慰めゆした

らん小返まぐも朽慥くる。日へ後るとも敵討。昨日自方と  
破り一長かり。俺們あしを。敢て一自方の知を確る。雲く  
べき。今這四百の勇士達。それとあわら。輩いわし。續やりと  
つひまふ。明智光俊正體。十文字の鎧を忠院小搦薙。  
それとを明智の流着。おし。江州安土山の城守。明智光  
馬助源の光俊なり。山崎合戦の搦小おくれ。今日這場中  
戦死の穢世軍をまるものありと。呼るる。勢の高うれぬ。比  
敵の言。奉と。嘆免しく。中守く。雄く。一。敵討と。我  
く。引引。倚。澹。振。揚。る。呼。声。と。若。ふ。堀。が。隊。位。一。搦。く。扱。り。  
一。貫。小。又。騎。三。騎。若。小。向。つ。一。鎧。尖。小。の。け。後。小。當。れ。る。石。突。倒  
一。尤。右。と。進。倚。敵。若。い。後。の。鳩。胸。勢。搏。と。搦。ら。し。く。敵。當。る。敵。

兜を腹へ突込る。其と一時小鎗控へ。桐葉より一騎馬武者  
 を。桐葉より高く振揚。嗚呼とたより。敵中へ攻き着れ  
 ば三騎一同馬人共小撲倒。眼鼻口小吐血。死を大將  
 倍る。猛烈の憤戦。まろく。從士もなまら。まら。み  
 づ死。或は馬上。或は歩行。危より。響太刀風。烈寒。吹比敵  
 陣の。江波を巻ふ。黒ら毛。右より。桐葉。活き。鎧。水晶。敵の  
 霹靂を。石光山。石山。小花。を。傷く。鎧。突より。む。ぐ。が。や。だ。  
 と。鐵。掬。棍。等。し。き。棟。を。石。突。短。小。捨。俣。舒。舞。面。腦。器。腦。  
 甲。鐵。へ。り。の。久。巖。石。も。せ。く。陣。く。ま。と。う。岡。へ。死。と。あ。つ。楚。擲。  
 の。擬。撥。を。邊。擡。着。く。攻。起。け。れ。ば。了。得。の。場。勢。も。り。ま。か。く。  
 右。領。元。倒。小。中。へ。ん。つ。あ。ま。ら。岡。寺。を。身。を。敗。走。を。一。息。纏。や。

と左馬助。自方と本の處へ。退場。霎時。息と。懺め。く。城。久。太。身。  
 秀。政。へ。微。勢。の。致。と。侮。過。く。只。一。戦。小。突。頼。され。岡。寺。を。身。を。  
 敗。走。せ。し。と。和。も。お。も。ひ。極。意。と。も。お。り。胸。も。抗。割。傷。く。敵。  
 斷。を。た。り。て。隊。伍。を。整。し。自。方。と。大。小。呵。懸。す。這。遭。へ。後。へ。  
 一。足。も。退。す。の。心。を。固。く。軍。盟。の。如。く。指。揮。す。つ。も。威。と。  
 活。く。く。突。發。か。ん。明。智。先。後。を。れ。成。視。く。直。く。も。着。ひ。  
 進。つ。る。もの。も。今。指。ま。ね。敵。を。つ。り。ける。あ。れ。響。提。目。と。謂。  
 信。ね。小。承。所。と。比。田。藤。田。荒。本。村。上。魚。城。大。太。刀。古。橋。延。出。  
 せ。ん。と。れ。い。氣。と。得。く。石。川。野。村。之。定。一。族。切。兜。記。本。條。が。れ。  
 お。これ。と。沙。踏。鳴。一。握。り。隊。伍。一。面。も。觸。る。を。乱。殺。行。小。取。援。す。  
 その。圖。と。援。す。取。駈。起。よ。と。呼。ぶ。く。左。馬。助。二。百。九。十。の。猛。勢。と。



彌小園ひく実登一。一千六百の垣勢と。一書翁小懸倒さんと  
 山とも崩せ海をも塞げと開けが忽地烈火の傍く。合せ六宛  
 沸水小似き。種づ輝つすまわと。懸る小励と一。垣勢も隆乱  
 彌く着えけるも。大将秀政大母怒り。遂き自方の所相  
 うね。敵を自方不倣れが。澤津小軍小周半小等一。一接な  
 さく。塵玉せん。菟とや菟れと。烈しく指揮なり。正懸不進人  
 と戦ひけるゆゑ。多勢不寡勢の思ふ。身退うと。明智  
 勢都く細城被さる。傍く。髪の柄より脚指さき。盧紅小言  
 偏り。澄も大半末波具の。破落さわら。推うれら。敵の傍く小案を  
 する。松抛弄く。苦戦なり。なる中も。大将光俊へ。裂り小強く  
 乱突一とわ。十文字の鎧。絶尖より。拵拵と折く。腰首四尺寸

疎るを其俣高揚。か小信せ。敵中へ。破と抛投れ。志津  
 三高々。精煉する。三尺六寸の大拵刀の。臂面小かぎ。逆進  
 敵を搔落。埋く。と。敵を不系。腕へ勇あり。洞洗へ。利なり  
 阿と正懸小殿太刀の。敵が喉の八掃度より。極を放つ。と。着  
 たり。胸への。鞆くけ。馬の臍へ。破迎。喉と一。攪撰斬  
 まね。騎兵の腰より。歩兵へ。車首。轆く。四尺。喉と共。小苑。教  
 う。這極。戦ふ。亦。一。半。車。敵。ま。き。終。く。て。兵。兵  
 走。秀。政。方。僅。一。堪。海。を。憤。喝。一。騎。馬。と。躍。らせ。左。馬。助。不。馳  
 迎。つ。き。危。も。や。秀。政。先。後。兩。將。此。小。雄。雄。と。決。ま。り。風。情。と  
 着。ゆ。る。咫。尺。の。際。へ。短。刀。勇。気。自。村。三。右。衛。門。政。章。自。勢。と。軍  
 と。横。相。不。至。人。の。馬。と。推。隔。左。馬。助。不。撰。り。合。阿。と。周。太。刀。を

峰と合せ。陰より来れぬ陽。不仕。馬の旋回。鳴海の洋の渦。  
 巻相不肴。とちの虫。八改上。不。颯風の火と。卷騰るも。斯る。  
 と行看も。痛く。晴怖。その疾速。を翻電。躍波。稍。三四刻。  
 も戦ひ。一。が。滅身。石。怒。若。不。疲。れ。若。右。左。退。別。と。将。車。  
 と。も。不。休。息。せ。り。堀。久。を。所。秀。政。へ。必。死。の。款。不。斬。記。られ。初。度。  
 の。み。あ。り。再。度。ま。で。隊。伍。乱。れ。自。方。の。兵。士。一。百。四。十。  
 撃。れ。た。れ。ば。憤。激。を。と。あ。ま。り。ひ。返。す。も。言。給。の。る。自。兵。  
 の。所。他。那。量。激。勢。の。款。会。と。撃。控。繰。せ。く。使。く。と。軍。小。暇。過。  
 の。か。く。頃。刻。自。方。の。二。陣。を。来。る。そ。れ。の。勢。不。那。款。を。撃。  
 敗。ら。す。と。の。な。り。後。日。の。朝。末。代。の。耻。辱。へ。た。ん。が。小。朽。憾。了。  
 ん。や。二。陣。の。会。の。来。ら。ぬ。ち。も。を。撃。控。一。磨。不。せ。く。努。く。

撓む形。退くか。と。怒声。活。陣。頭。く。と。う。馬。と。駈。出。し。小。  
 旗。を。搦。く。指。揮。を。る。勢。の。生。終。ら。ぬ。小。奥。村。政。章。深。と。流。  
 る。汗。拭。ひ。弁。憤。怒。の。頬。鬚。逆。を。り。發。炮。の。係。く。駈。出。を。  
 を。秀。政。看。る。より。奥。村。を。撃。せ。く。一。同。く。繼。て。突。  
 馳。し。た。れ。ば。又。れ。も。く。と。又。六。百。鞆。を。な。く。銳。茫。連。ね。鶴。翼。と。  
 な。り。と。先。後。方。の。正。面。と。ま。る。滴。血。虫。と。息。を。も。さ。せ。と。  
 推。捕。稠。塵。不。せ。ん。と。接。起。る。是。二。度。目。の。交。戦。を。り。這。時。咽。  
 智。の。後。兵。い。兩。度。の。烈。し。き。決。戦。を。交。代。自。方。も。あ。た。れ。ば。大。  
 才。撃。れ。く。豪。兵。傑。士。百。騎。を。り。を。殘。さ。れ。る。各。く。款。と。胸。个。  
 よ。ひ。き。と。鮮。血。と。苦。小。混。し。流。る。若。汗。と。拭。拏。嘘。吹。と。外。車。  
 不。揚。へ。一。勇。士。百。頭。雷。憤。兎。怒。し。七。親。殺。か。ん。小。一。層。搦。牌。の。

相あるがまが没後のゆきと躍上つるその相貌驗みく當強く  
 暴戦しつん。左右の大袖新裁落て御形一肩強れる威来  
 と元色へあやもころねと血気めく赤く黒く泥着腰垂境  
 も草摺落る。髪も胸尻畢玉落。二三痛づ強しつる。菱に  
 威せし肚巻の抱格の葉へ堆れと。それさへ裳て家印とも  
 分らん。兜へつらあ落され。髪盤髪せし大乱相肩同類  
 顔か。頂邊從横小血気流き。面額あやまを黒し。瞠眼  
 鯨口真鼻。虎鬚ひんすのま小提けさ。佐く伯部練波の  
 大暴洞。焼色鯨して血気流へ。燕人張飛が長板破不  
 魏の百万と怒呵さる。蛇矛小あやと思ふ。鋒りの巨敵不契  
 着鯨血気舌ま。抵取敵小向ま。舌と唾喝。大音揚る

款ハ昨日の自方あまに知る軍もありはらん。最期に隙く  
 こが素性成。鋒不説ん。涕も聴け。丹州保津の山中。猛  
 勢悪指と休ま。乳味と借らま。成長ま。林半に舟  
 武後が。主君赤一戦死あに勇悍の量と試よ。れも圖麿  
 の廳茶へ目し看る。敵のまもつけハ。撃行し。牛頭馬頭へ  
 纏頭し。ま。し。や。ま。れ。と。二。牛。敵。山。も。霧。る。ま。り。に  
 喚ひく。驀地し。奔。發。し。一。千。餘。人。も。わ。り。つ。る。敵。と。強。群。の  
 偉く。偉く。看。し。一。擧。る。と。壘。秀。改。宗。帝。揮。て。決。率  
 と進め鬼神あま。甘し。一騎あま。一。千。余。騎。あ。ま。一。乱。殺。せ。し。輪  
 しまも。最。期。し。漏。ま。り。や。つ。と。指。揮。し。つ。も。喊。と。作。て。數  
 百の陰又。隆。し。偉。く。に。捕。調。し。林。武。後。大。口。開。き。雷。笑。一。聲

林半四郎  
武俊打出の  
濱に於て  
戦死す



彼後の正中搏つ瀧ハセバ。右小拋立た小掛ひ。東西南北去く  
来く。其場小あゝと看る際もなご。速くも形不へ実走する不  
斥の翼と得らうし。や番に逃るが然然せしけ。後小走ると  
海小瀧も近く進ると人捕。捨落りくくと拋發するがに。  
首裂腕折胸賑け。或ハ流殺一抜刺一。一瞬も息する際  
中。死骸ハ波流とよむる。群血ハ縦横川となす有係小洞  
き湖も才ハ紅と流し。這憤戦小のく。誰に敵とる輩の  
あゝここを號却り。秀政も。驟断とす。つ退遁行。大將斯の  
わゝあゝの雜率一個も遮得ど。只一掃小敗走。木武後うらうと  
野顧戦も。た也足してあゝいふぞ也。若ハ快く坂本へ零させし  
これ小の所様別賜と。一と燃る。たりの息吹出。陰く血戦の暴れ

ハ全身不朱と儼ぎ。頭へ霜小熱せる。檜の碎けらる。勢繁と  
至斯まで種く様きられども。心神ハ猶勇み々。凍く熱と走り  
暮り。逃性敵を追。菟相存も小持する。長歳を。目先三尺震  
騰けるが。一聲呼と烈。一叫。重なる敵中へ拋着るが。其結  
一連。半串の傍く小倒し。右も。振する太刀と。機来。用  
く。又騎の敵を追。仗算も。小果ねる。利足踏。荒力。不。信せ  
隣り着れば。親と。債る。血と。共に。八裂小なり。を。死  
気味よや。といひ。す。太刀と。唯。喊破と。擲立。身と。躍し。湖  
水の中へ。斷渡と。逃。授り。果。うら。凍。熱も。示。膠。うら  
光俊躍大駒推。涉。琵琶湖。属。徐。入。坂。木  
秋花ハ春花の。花。小。似。む。と。光。秀。光。俊。の。兩。將。が。最。期。ハ。驗。し

這句不似。日向守の秋の花乃。枝不萎て落る不似。光俊が  
 身の終へ春花の雅英不飛か如し。屈りて其理をら不演  
 る。秋ハ収なり又秀あり。光秀の字の一と當る。亦光俊の  
 名字不於る。後と春との音通へり。光俊は春との音も春俊の音も通ふは筆者の誤をあらわす  
 天慈も略わるとの秋然や不明智左馬助光俊ハ林が最期と  
 快と親徹淳履と敬遠とたり。嘆息と悲哭の泪止教す。  
 落るとるへ堰が軍勢。林戦死と看よりも。存び吐と盛返し。  
 光俊彼等功を不せん。隊伍を乱しを馳蒐る。這胸光俊不  
 隨不兵士ハ後不強り。十八人。それ之半ハ死し。言如く。曲はる  
 太刀と杖とたり。折る。冷く把継る。肩不息してありける。或  
 左馬助ハ顔る。故後へちや戦ふべくは。これ今一接しと教を

逃退。後備。小死。まを。いひも。終ら。被。太刀。兼。立。が。い  
 小軍。襲。迫。進。る。敵。を。斥。退。し。り。堅。剛。權。藤。之。字。十。字。四。十  
 餘。年。と。有。る。勇。猛。力。強。の。あ。る。が。け。と。這。小。死。し。て。戦。ふ。や。と  
 不。十。八。騎。か。れ。も。滅。心。石。膽。忠。義。不。懈。る。勇。猛。士。の。身。ハ。死  
 ま。る。と。も。魂。魄。離。れ。足。踏。り。脚。を。踏。搦。へ。目。不。入。る。鮮。血。成。構  
 去。る。試。せ。し。傷。つ。け。さ。せ。と。馬。の。前。後。を。守。護。せ。し。と。斬  
 とも。棚。も。更。不。倒。也。す。然。も。都。々。不。具。才。少。右。自。を。為  
 され。尤。自。少。太。刀。お。握。り。棒。く。も。あり。才。頼。則。也。復。同。少。く  
 候。多。棚。不。挑。む。も。あり。完。修。羅。の。希。釈。不。攻。ら。る。も。亦。斯。や  
 らん。落。る。苦。戦。を。さ。る。あ。ら。ふ。も。大。將。明。智。光。俊。ハ。万。丈。不。當。の  
 真。勇。士。と。し。騎。こ。る。馬。ハ。世。不。参。ら。れ。る。大。駒。あり。多。く。二。双。の

透物主も馬も窺く瀟々と。残をも被す疲もせは。敵中と駈  
 廻ると。鐵輪王の日車と轆と。口海を回るが備くなり。這  
 勢小堀勢亦も崩記と看えける。成。奥村之右衛門大八郎。後  
 隊伍の暴勢と勵せし。今一擧せぬせん。怯む形退れと  
 改章がまづう。正冠小斬起と。二口遺を攻着ける。先  
 後小後小共士とて。一人もつらう。奥村もさす退ひ  
 ず。秀政小目澄と。まらや光俊一騎あるぞ。進めや進め。  
 總薨りせし兵輩と。呼とく。光俊目的と。た自ら程見  
 蒐れ。右方より。堀久太尉秀政が。振勢一ある。衛隊一丈  
 二尺あり。只一棚と。棚蒐る。あぞ。一千餘騎の堀が  
 軍兵。總薨り。不推逼と。嗚呼痛む。一た馬助。うら。神將

天足ありとも。這鐵欄を。わらう。破り。裸まると。將んと。  
 敵一の。つれと。堀が。兵士も。密に。憎む。族倫も。あ。百  
 万騎も。圍むと。些も。驚く。氣色なく。植。こ。太刀  
 把直し。四方と。看む。自方の。兵。一人も。な。今。た。や。これ  
 才。あり。明智左馬助。光俊。最期。の。軍。不。死。地。を。ゆ。活  
 路。小。向。の。橋。を。看。む。と。一。考。高。く。叫。び。堀。奥。村。が。脱。逃。と。排  
 去。躍。越。近。進。敵。を。斬。割。物。着。死。憤。を。奔。り。濱。方。の。一。方。  
 騎。破。ら。う。と。看。ら。う。一。鞭。あ。つ。れ。名。と。得。し。大。駒。一。躍。三  
 丈。湖。水。の。あ。う。一。文。字。小。騎。込。ら。う。一。千。た。ぞ。の。堀。勢。ハ  
 あ。れ。し。と。つ。小。を。う。り。澁。池。か。り。自。己。と。志。を。開。け。り。は。敵  
 塞。き。も。や。し。も。斬。果。て。と。ま。ら。う。け。る。智。力。り。勇。る。り。左。馬。助。光。俊



明智光俊  
大騎小騎  
琵琶の  
大湖を  
渡る



一身死地小逼るの期をわく。驚きもせず一條の血路と聞  
き一千石満の圍を遁き一機密の所作妙あるが奇き  
か。陸少大将秀政とちりり。士車一同三つ飛つ。今や  
沈まん懶うなん。何と目的小遊ぎやまると。目も放さず不見替  
す。左馬助の今やを數刻若戦せると。些も取らば鞍腰ゆ  
る騎下て。勢とくけく息とられ。馬の腹を養ふとせ。韁を  
急つ援つて。遊がまる。御最もむれり。宗来光俊這湖上  
を。試ること屢うして。活る時節のありのやまると。坂本の城  
小ある機會う。江南よりの淨路小大津の濱より辛崎  
まで。湖水の深淺波の往復地の理を仔細小覺えり。り  
それのこあるを騎つること。馬の造物大賜あり。牽揚

操揚騎浮め。遠凌ふつきを騎凌し。停の居るねと。り小  
到む其術小妙を得る光俊或へ短く一感へ急中。  
鞍小進むつ退き。筋勢よく騎趨く。大波小波を操  
らるを。三里と聞え一琵琶湖の波路を。やまると。活  
たり。その行相の凛し。特更眼をまき。めく。特建水  
徳が筆精そく。描き一外奪る雲霧の墨。後を神を  
得るを。り小覺え。主の勿論馬の大強の強。是也。此の妙を能  
せり。穢不明智光俊。無事の日。り大湖の深淺波の  
往來をよく操り。這期小這で死を活と。辱を返し。業  
つ。むる。は。君光秀小も。ち。に。増り。大將の墨量  
満足せり。這時小も。羽柴方の二陣三陣次第をおく。

馳来り琵琶湖の岸小立速り。将軍ともふるど呼き扇  
 を開ひく。又手も騎り。馬も大張逸物。外套の鞆も  
 活るが像一呼禁の見警ど。風流といひ武勇といひ。茶代  
 末陣の名将やと膽と熱と感佩あ。異口同音小續  
 稱する。其勢琵琶湖小响満り。波よりもなれり。し  
 た馬助光俊は。流る大湖を異ともせせ。白波記て行まふ。  
 馬蹄の痕も一匹の布を斜る像く小看えて。西岸近  
 く騎去るがふ。波傳流くと其るも。馬程がふ看流り  
 するが看り。明智光俊の難あり。幸侍の岸小着。號波と  
 一波四蹄と躍らせ。陸小よりく水振なり。一勢高く断る。  
 名小負小松の卜落小。騎倚つも左馬助馬よりやうりと

跳ぶ下り。松が揺り腰うらかけく。金地小日の丸と描きする。  
 軍扇把く推開き。霎時暑氣を凌ぎらも。息と休めく  
 在りける。羽柴勢は光俊と。誓備しける憾念さ。と陸  
 小登ると看りけれ。三井とたふ小神出村。或はうりの溪谷  
 と傳ひ。幸侍當く馳来る。左馬助これを見て。指く怒と  
 罵小うち騎。徐くとあゆませく。坂本の街小投り。十五堂の  
 茶小煮りく。着ひ馬より跳ぶ下り。韁の環を裁断て堂の  
 格子小押着。拍研と把出番單ある。畳紙小光俊流湖馬  
 とのよ。又字と額つけ。手取誓しこれを結付。徐歩し。坂  
 本の城小投り。方僧光俊が大駒を。十五堂く駈りし。  
 斯まを巻せし。後足たもゆ急。城中小幸投り。殺せん纏の



奇奇の磯小  
左馬助  
涼風と  
散納まる

豊臣巴ノ編巻六ノ



豊臣巴ノ編巻六ノ

不便ふびんさ小。這このころ所つら小繫つな屋や。敵たけ小送やりく馬ば城じやう助すけけ。これまくの  
因お成ち報はひ仁に意い。且かつ戰せん歸かへ城じやう斷た捨すて。毆う死しの覺かく悟ご成ち  
示しせ。昂あう智ち。繼つぎに言げん信しんの途とちをまりく理り。此こゝ久く秀しゆが平へい治ぢの金かねを  
筆ふで小將しょうをたへる  
も不ふ可かなりん

光あ俊しゆん勸くわん諸しよ士し令しやう落らく坂さか本ほん城じやう 属ま主しゆ從じゆ畫が義ぎ

項きやう羽うが鳥う雖い勇ゆう小服せうふく。劉りう備びが躡しゆ駭かい仁に小服せうふく。関くわん羽うが  
赤せき兔と馬まの義ぎ小服せうふく也。千せん里りの鞍あある馬ばのあれども其その主ぬしをあけ  
ねば千せん里り疾しやく馳ちくも。這この大おほ駟しも主ぬしと換かへり。これより秀しゆ吉きちの所しよ  
する小値せうぢも。才さい千せんりく千せん里りの鞍あをありし。賊あが嶽たけの駈か着ちやく小せう  
廿に二に里り餘よを一いつ躍いつぱ小せうせり。是これ其その主ぬしの良よくねばなり。然しかるに小  
羽う紫むらの二に軍ぐんい。ちやも坂さか本ほん小推せう進しん来る。それがあらうにも

堀ほり勢せいい。今日けふ光あ俊しゆんを撃う漏ろう言げん朽く憾憾さ小直ちやく地ぢ城じやうへ推お進しんん  
と。森もりゆきげくは大おほ將しやう秀しゆ吉きち快くわいより左さ馬ま助すけが不ふ居きと案ある  
小せう當たう時じの英えい雄ゆう實じつ小憤ふんむく。助すけ命めいせらせん王わうをあひと。  
鐵てつ石せき心しんをいくもせん。切せきを最さい期きを安やすくせんと。城じやう攻こうをせせ  
られ。緒お勢せい今日けふの休やす息いきせ。明日あした辰しんの刻とき城じやうを攻こう進しんらせ  
との軍ぐん令しやうありこれより諸しよ軍ぐん路ろ隊たい伍ごを固かめる  
二に軍ぐん嚴げん密みつ也。宿しゆく陣ぢん也。然しかるに小丸まる馬ま助すけ光あ俊しゆんへ給たまへり坂さか本ほん  
の城じやう中ちゆう小投なげる也。城じやう代だい明めい智ち長ちやう閑かん夜や。明めい智ち秀しゆ親おやの父ちち 出い迎むかへり意い  
あれを喜よろこびるがらも。山やま崎さき敗たい軍ぐん光あ秀しゆ毆う死しを吊ひ彈だんり。送おす  
個こ小せう咽おひけるが時とき小光せう秀しゆの室むろ阿あ牧まき子こ照ていの方かたも出い席せきり。  
あひくまの悲かな結むす哀あは纏まとの多おほくりけるが長ちやう閑かん夜やあらうにも

左馬助小うら嚮ひ。既小進兵も堀下小あり。計織いひて後々  
 べきと言發ける。城北の方。惣然りて重きれくるや。當家の  
 時運斯成果。這期く迄ひく何を謀らん。既小昨日備  
 尾ケ小郎。主君の遺書を傳へよ。張。熟く看る小所を  
 らめさせよ。言もあね。臣家の面々。いつくありとも。落しや  
 堀。火を掛け。各張。親もくも。若小自害して。果はらんより  
 外へあつ。長き経。織のそのうち小。時新。後りて。款進。事  
 べ。不覺小及ぶ。事りや。出来なん。登く。這織小決せられ。う。重  
 されける。を。先後。光。廉。談小。究竟の決断。中。牧の方。小。女  
 姓。あ。く。お。し。けれ。も。勇士も及ね。その。令言。雖有。こと。に  
 覺え。ひ。然。く。諸士小言。听せ。落さん。の。と。本丸へ。呼集。む。

個々小。二宅。周防。守。堀。口。三太。史。四王。天。又。長。村。上。右。右。端。の。  
 今。奉。新。助。小。川。源。太。守。内。藏。三。次。守。尾。右。友。左。衛。門。右。衛。門。也。  
 村。越。三。十。郎。此。三。十。守。の。先。秀。小。隨。い。一。校。と。防。ぐ。安。福。守。左。衛。門。中。次。右。衛。門。也。  
 久。下。三。左。衛。門。藤。井。六。人。忠。義。の。勇士。這。席。小。列。座。して。各。殿。死  
 を。云。小。せん。と。等。しく。號。で。も。中。け。ると。長。閑。森。諸。士。小。向。ひ。這  
 座。小。運。ある。個々。へ。當。家。の。珍。度。と。守。衛。られ。んと。今日。せ。て。隨  
 從。せ。ら。る。事。一。應。あ。る。ぬ。深。忠。切。義。今。更。謝。せ。ぶ。き。や。う。も。あ。り。  
 猶。這。上。の。芳。志。あ。へ。急。ぎ。這。城。を。辭。退。せ。主。君。の。子。孫。と。看  
 護。す。わ。く。せ。且。亦。亡。君。の。所。善。提。を。も。吊。り。ひ。の。あ。され。せ。ら。る。  
 驗。小。二。世。ま。で。の。忠。義。あり。遠。義。と。北。の方。より。も。精。之。の。作。せ。く  
 と。の。ま。と。於。て。満。座。一。同。願。忽。地。変。ぢ。る。ま。と。小。序。を。正。し。

豊臣記六編卷之六

終に據りし斯に城代の作せしも似せ。俺們昨日が今日までも  
多くの親族朋友小籠に。斯便くと死退きしつゝも所  
一所中と覚悟ししは。処不。落行と作せ。聆らるゝ世中も吾儕と  
未練の輩と。おぼしむるも。由急あらんが。面目と向けんやも。一  
今ハ脱行時も。蚤く。吐捨。到る俺們。心の唇と所。覽不。入ん。  
と各不。おく。刀の柄を。振つ。つねに。光俊。光康。北の方。も。一。條  
小諸士の自殺と。周章。推止。の。左馬助。持。お。て。い。や。や。是。個  
東西。ある。相。ひ。は。致。今。這。城。不。俺。們。が。又。百。三。百。凝。守。う。う。と。も。始  
終。全。き。奉。仕。を。終。然。ま。れ。ば。吾。儕。も。北。の。方。も。公。達。を。具。一。一。そ  
せり。一。夜。丹。州。へ。潜。行。然。て。后。不。針。織。と。廻。ら。し。亡。君。の。所。志。と  
継。せ。ら。る。也。若。び。明。智。の。家。名。相。續。つ。ら。ら。と。さ。し。心。中。存。今。這

城をも一。退。去。か。す。ぐ。な。り。も。然。ま。れ。ば。あ。や。り。愈。劇。使  
看。み。も。遮。り。也。各。く。心。く。不。落。性。公。達。成。長。し。く。一。旗。揚  
す。と。聆。ら。る。の。あ。ら。ん。急。で。群。衆。の。ま。れ。し。蚤。く。退。去。し。ま。れ。し。  
君。の。所。家。名。相。續。と。專。不。掛。念。ら。ら。と。そ。忠。義。不。遠。上。あ。る  
べ。う。と。理。義。最。重。小。統。著。け。り。と。北。の。方。も。綱。と。條。ら。れ。各。く  
猶。豫。し。遲。く。す。る。あ。ら。ん。自。身。も。亦。少。君。も。君。臣。の。道。と。断  
裁。り。二。世。中。を。缺。籍。あ。ら。ん。と。瞋。を。會。で。作。る。お。ぞ。今。ハ。脱  
か。遠。を。ん。作。も。黙。止。が。さ。ら。れ。ば。所。意。不。隨。ひ。り。あ。ら。ん。と。さ。し。由。  
願。兼。ま。る。お。ぞ。光。俊。光。康。北。の。方。も。安。途。せ。し。れ。款。の。攻  
ま。ら。ぬ。際。も。ち。や。使。し。と。勅。め。ら。る。時。北。の。方。も。縁。て。より。準。備  
せ。し。れ。多。く。の。囊。不。金。浪。盛。り。個。く。不。分。解。る。條。切。あ。る。お。ぞ。

豊臣言二終巻之六



曹臣記六續卷之六

數百の勇士雜乘す。數行の洞より放す。雜辭を報て  
心く小。編睡を覚めず。居佳けり。光俊光廉今ハちや心寧  
一光更バ款をひさくけ一軍一々。英く一、肚刺る一。  
その準備をぞかきつけり。

入江長兵衛為老狐被誑属光俊仁吟

尊卑得失當人小。つる緯賢き左馬助。如き小おのころ。  
鬼神小も比まきき大駟ぐも。独跛一復ま。隨の自足小  
暈ひ愚なる長。玄端が如き小及んま。一狐も解く一仇を  
なれ。賢なるくお其人。愚あるくれ此人。借も坂本の城中  
あ。當夜のうち小残る方なく。生兼死後の事とも細く曉る  
を待く存りける。処小。堀久太郎が駛率長入江長兵衛と

いふ者りり。昔年左馬助と。親しき交友なり。つらう。  
這遭の城攻小。恰と光俊が首とめて。他のも小。搦さんより。  
梁小逢く首と乞承。我功名。備へんもの。夜の隙より。塔  
下小つき。曉る夜。暈一と等在り。左馬助ハる小。おのころ。  
寨樓小登り。射窓と開き。進兵の陣と睡在る。塔下を  
窓と看。弟せ。情く地小立ものあり。とね。他軍あや自方  
みやど。晴を定て。視くやれ。お。舊友入江長兵衛。光俊  
おのころ。某。絆入江長兵衛。敏小。つらう。おのころ。おのころ。  
油も。おのころ。寨樓と。睡。作小。光俊。おのころ。おのころ。  
光俊。公。おのころ。乃士。今日。當城の。一番。騎。と。こ。ら。さ。し。  
快。う。と。ね。小。相。待。小。喬。持。を。不。思。織。小。も。綱。を。か。け。させ





豊臣秀吉の陣



左馬助光俊  
 仁情を以て  
 入江長兵衛  
 活計囊を  
 脱ふ

豊臣秀吉の陣

予小軍實小敵一も存ざるあり。と重きと輕し左馬助。その  
 心と願われしを。然れども我今一炮を放ちて。足下と撃め  
 ち。翼ありとも丸頸を通し。こゝに終り。一も。回文深き好を  
 め。浩る不仁いさぐら。は。若し一言の異見あり。今這一端踏  
 る小隙。若くは。今日天涯の月より先小隙。今日生小。最期  
 一句。遺言。ま。一。徒言とを。おひひ。我少年。色。若。一。  
 是。戰場。不。隙。む。と。進。む。と。と。斜。と。好。む。退。く。時。の。度。  
 を。奉。と。し。武。名。と。揚。ん。と。懸。く。も。畢。竟。子。孫。の。後。を。か。  
 さんと。の。ち。り。る。然。れ。も。天。命。と。も。通。り。運。ぶ。れ。れ。今。の  
 身の。果。こ。れ。で。幾。許。と。い。ふ。艱。難。辛。苦。は。家。と。一。食。と。一。心。  
 を。碎。く。も。今。只。身。を。葬。る。地。を。と。く。失。く。る。只。一。も。運。命。を。

き時へ。後。來。期。の。如。く。あ。と。一。只。望。む。く。一。武。仕。と。罷。免。さ。と。  
 去。て。安。小。居。は。是。万。全。の。謀。計。あり。此。理。と。意。得。せ。られ。わ。と。  
 棄。ま。に。長。き。清。大。小。感。一。實。一。切。致。作。あり。甚。忠。勤。小。隨。え。ん  
 と。強。が。ひ。ける。お。ぞ。左。馬。助。一。の。囊。小。黄。金。之。百。兩。を。納。齋。出。く  
 入。江。不。向。ひ。這。敷。を。や。活。計。の。道。と。同。き。り。あ。され。よ。と。抛。出。せ。て  
 賜。共。々。る。お。急。長。き。清。悲。涙。不。咽。敢。也。彼。黄。金。を。あ。す。ひ。推  
 戴。く。離。別。を。惜。む。退。去。ける。這。城。落。去。小。遠。で。右。致。仕。て  
 京都。不。住。居。と。討。め。高。家。と。なり。く。貨。殖。と。宗。と。一。老。後。乃  
 富。貴。誠。樂。む。ける。是。武。門。の。本。意。お。あ。る。め。れ。ども。身。を。親  
 す。小。場。あ。る。人。き。欲。承。來。這。入。は。長。き。清。は。佐。々。兼。領。の。家  
 人。身。が。永。福。の。初。の。ころ。光。俊。の。ま。ご。二。完。孫。平。次。と。呼。号。て。

長谷湯が鄰家小居住し入江と親しく交りける一日入江と  
 伴中。狐狩せんと思脱げ。伊吹少之住不ける不終日山中と  
 走脱れど。曾々獲物のあふまれば。先後も長谷湯も枝らひ  
 走らる。不々山上の篋の中より。狐二頭隠出。這方の洞際へ  
 逃投けるおぞ。よに物をこそ属用され。そを警止んと蹟追蒐  
 縦横百遍尋ねられども。嘗て行蹟の知ざらば。捕も焦燥て  
 谷深く。穿行つ像と看れ。一の洞のありけるまふ。肚腹ごも  
 ぐる。白毛狐の最煩し。伏在る。先後看るより。得とらる  
 持てる鳥脱そのまふ。箭先向く構われ。怪や白狐人給と  
 なり。あふと合せ。悲しけし。只今臨胎。これ商る。せ  
 這肚の子と分曉えず。あるふ。万乞寛免。すし。と。

洞と共子のあす。と長谷湯。最憐とや。わひ。ん。先後ぐる。不抜  
 越り。つろく。宥止れども。これを用ひ。む。撃殺。捉げ。帰る。賞  
 一。つろ。然る。小畜生の甘心。も。勇氣の。猛き。先後。あ。迫。つ。き  
 が。く。入。江。長。谷。湯。が。一。子。小。七。郎。と。覺。出。し。み。七。日。を。苦。楚。ト  
 わ。其。後。入。江。が。居。宅。小。返。す。それ。あ。ても。捕。宥。恨。の。拂。と。す。や  
 っ。ろ。ん。老。狐。と。び。廟。祝。と。化。し。入。江。が。家。小。入。来。り。小。七。郎。と  
 強。く。惱。中。奪。命。あ。さ。ま。く。施。術。々。々。附。境。先後。皆。あ。此。小  
 来。り。祝。廟。の。勢。の。人。小。あ。ね。と。迷。く。も。悟。り。遂。に。祝。廟。が。化。け。と  
 あ。ま。ま。白。狐。と。成。て。う。ち。殺。せ。と。ぞ。當。時。先後。徹。せ。入。江  
 親。子。が。所。小。お。い。て。ん。世。小。あ。ま。ま。き。狐。あ。ら。ぶ。き。と。其。危。難。を  
 す。抜。え。ね。と。毎。び。坂。本。の。最。期。小。臨。も。最。深。切。の。異。見。せ。ん。

交情既<sup>ハ</sup>邑<sup>ハ</sup>湖<sup>ニ</sup>の水<sup>ヨリ</sup>深<sup>ク</sup>と今<sup>ハ</sup>至<sup>リ</sup>と世<sup>ノ</sup>俗<sup>ノ</sup>俗<sup>ノ</sup>傳<sup>フ</sup>  
感<sup>ズ</sup>續<sup>ク</sup>一<sup>ク</sup>なり。

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

